



原作：『読書について』  
著：ショウペンハウエル

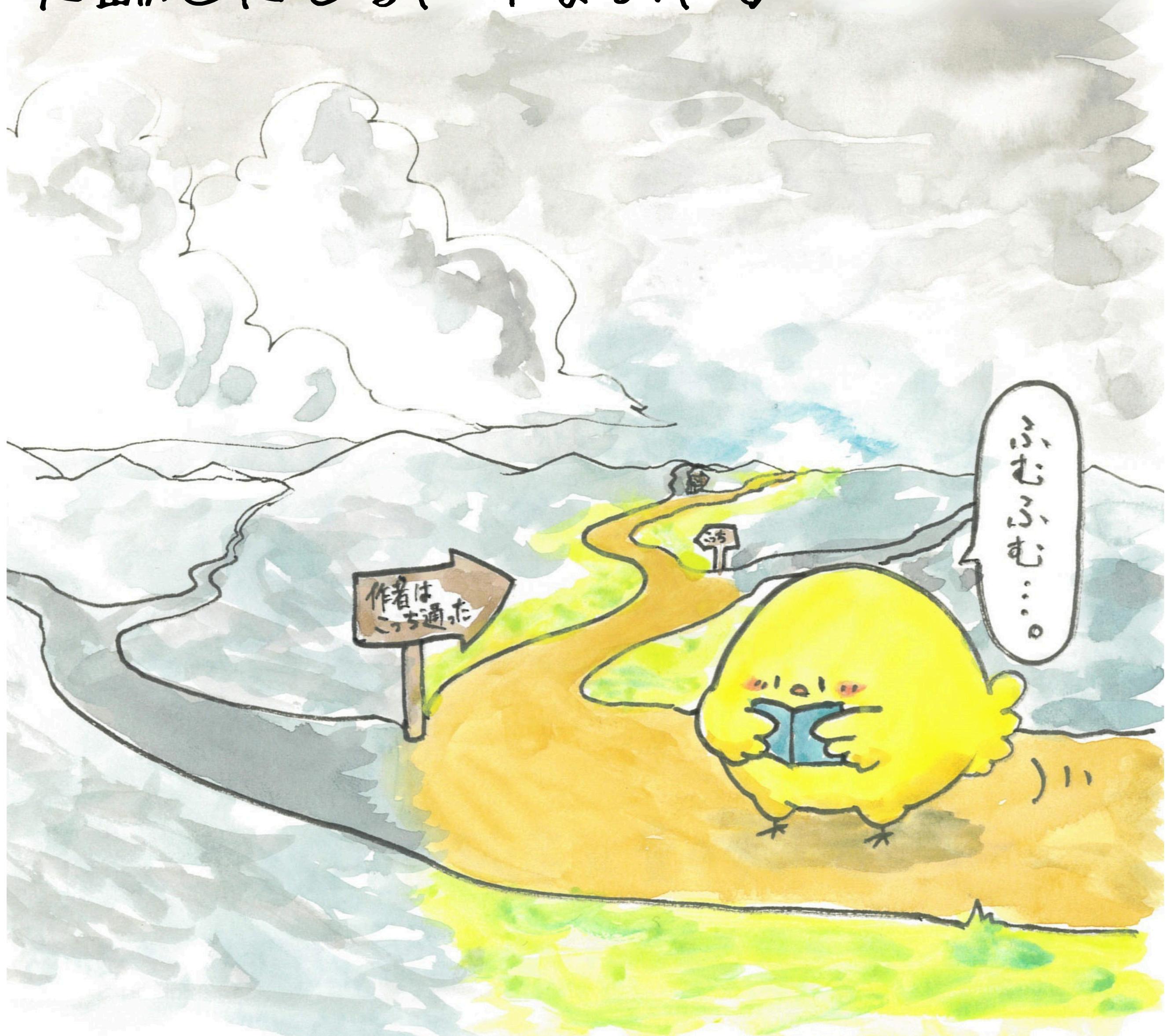


本を読めば"読むほど  
いろいろとわかるし考えが深くなる。

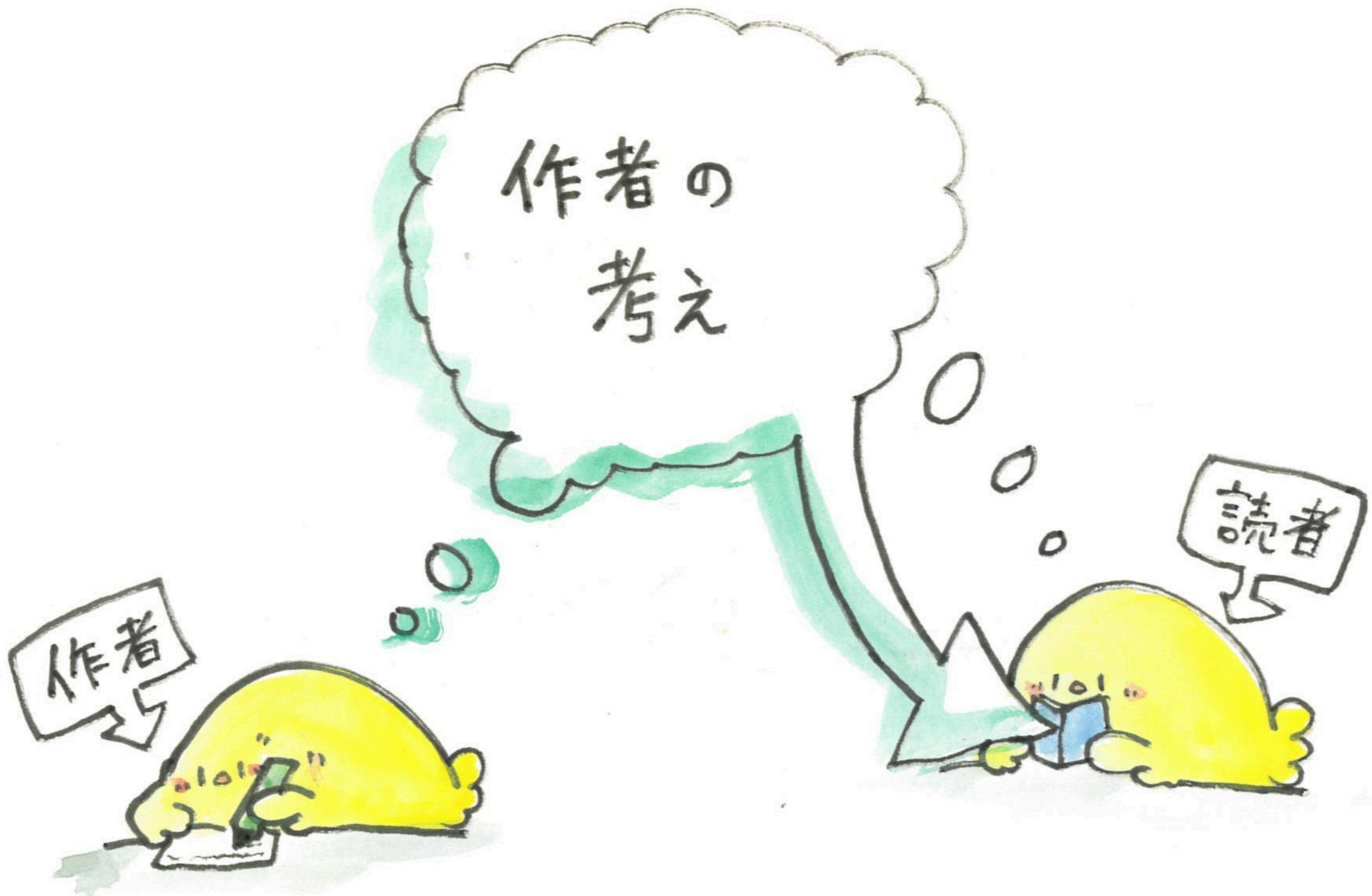


と思って ただ たくさん  
本を読んでいる人がいるけど

本を読むというのは、他の人の考え方の  
足跡をたどるだけなのだ。



つまり、読書は、他人に  
ものを考えてもらうことである。



自分で"考える必要がない"ので、  
読書は楽なのだ。

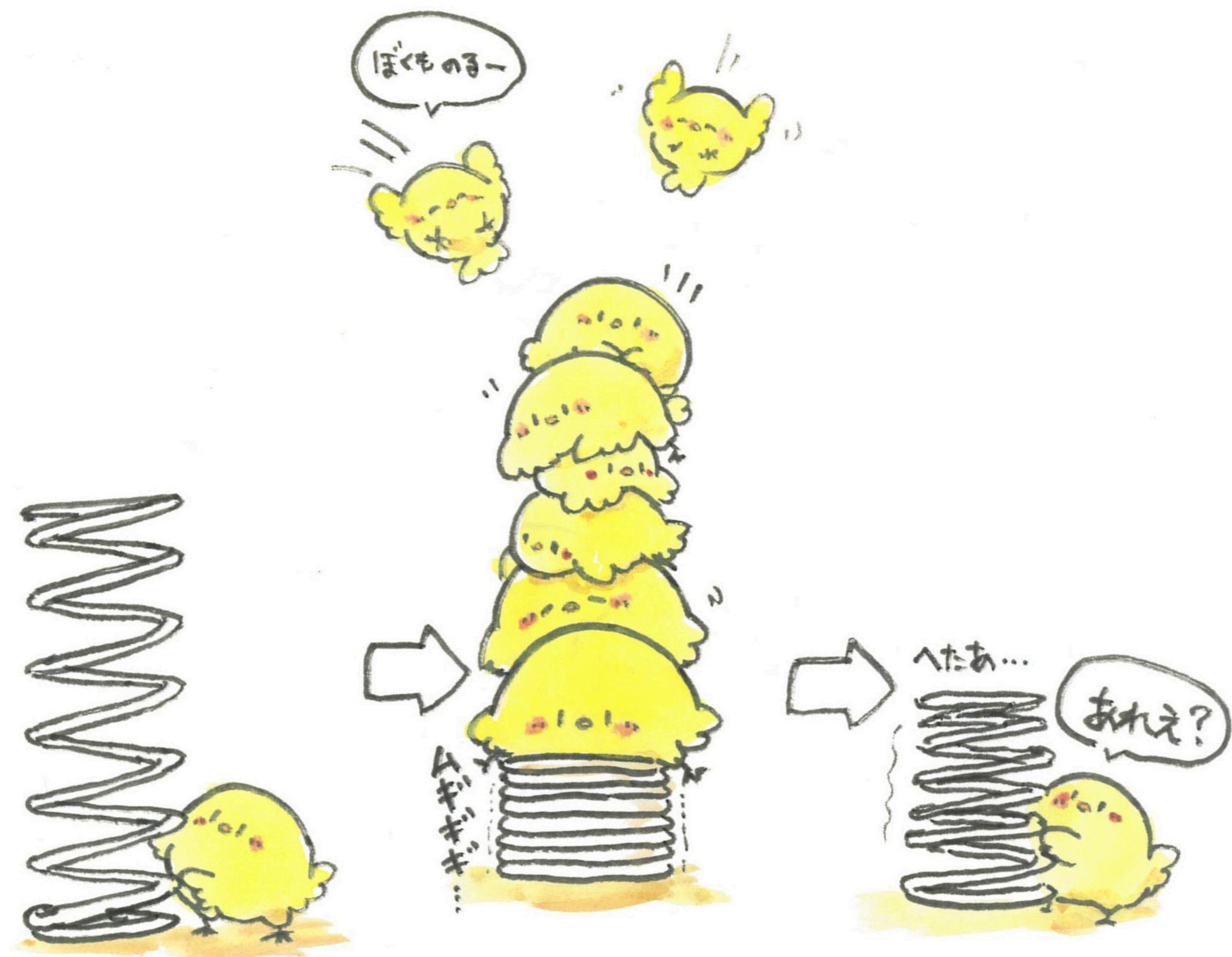




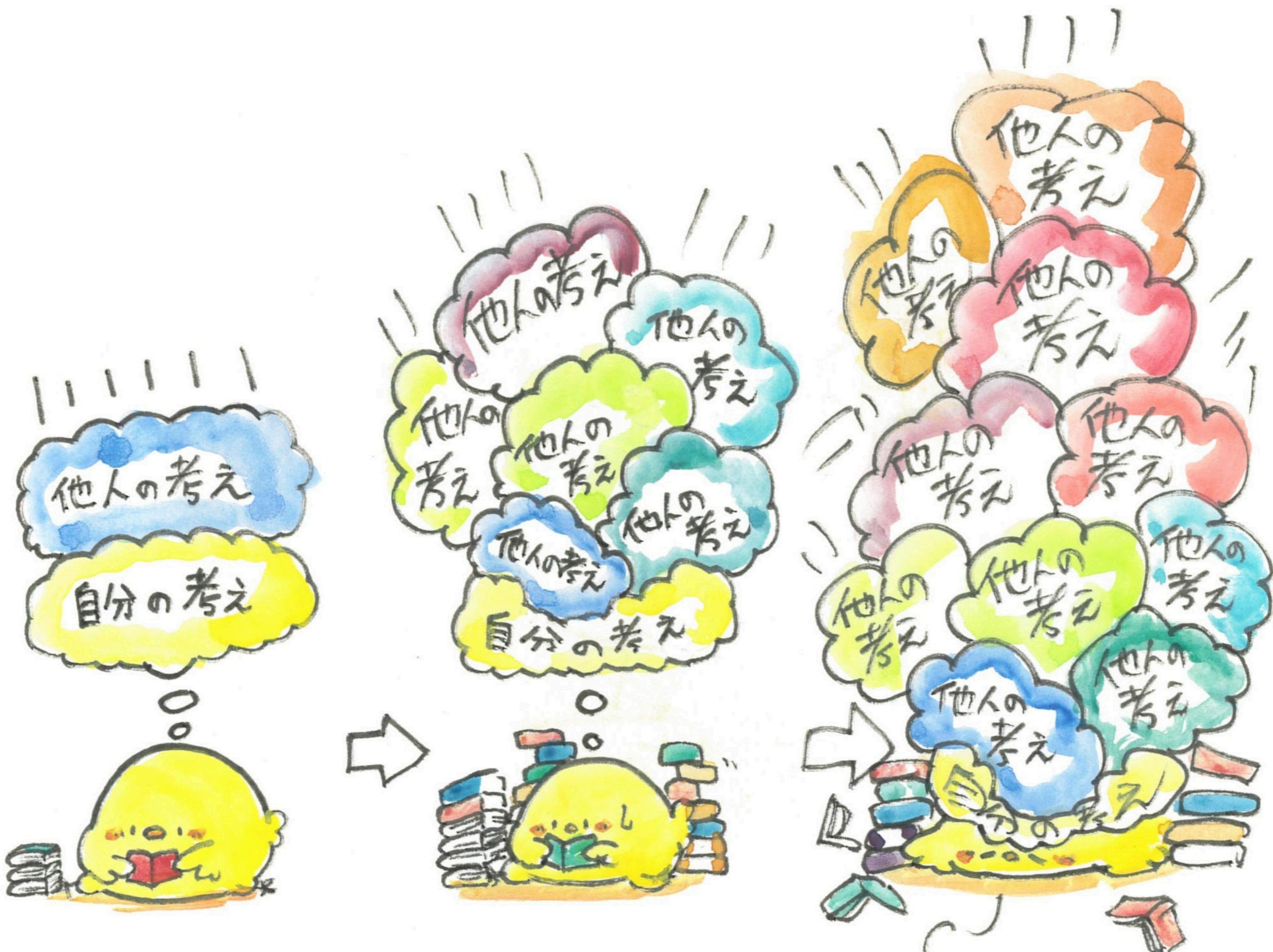
ほとんど まる一日を読書に費やす人は  
やがて自分で"ものを考える力を失っていく。



常に乗り物を使えば、  
ついには歩くことを忘れるし、



バネに、他の物体をのせて圧迫を  
加え続けるとついには弾力を失う。



同様に精神的食物(本)も、とりすぎれば  
やはり精神の窒息死を招きかねない。

食物をとりすぎれば、胃を害し、  
体調を崩してしまう。



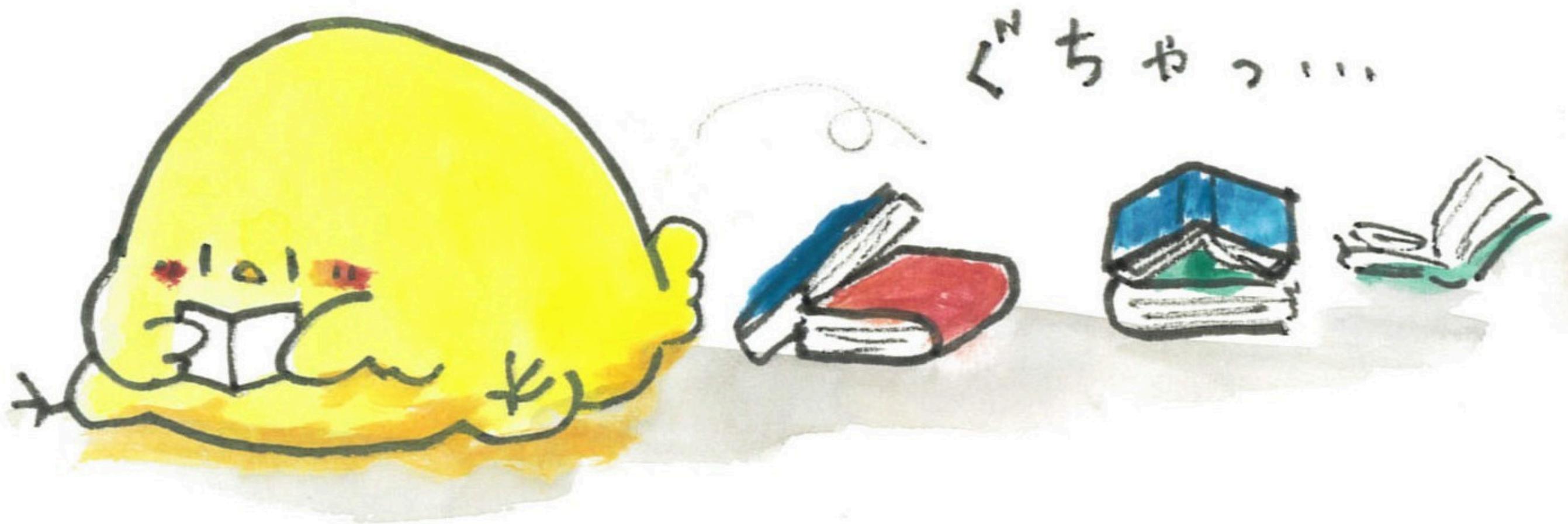
食物は食べることによってではなく、  
消化によって我々を養うのである。

よく かんて"



ゆっくり 食べるといいね

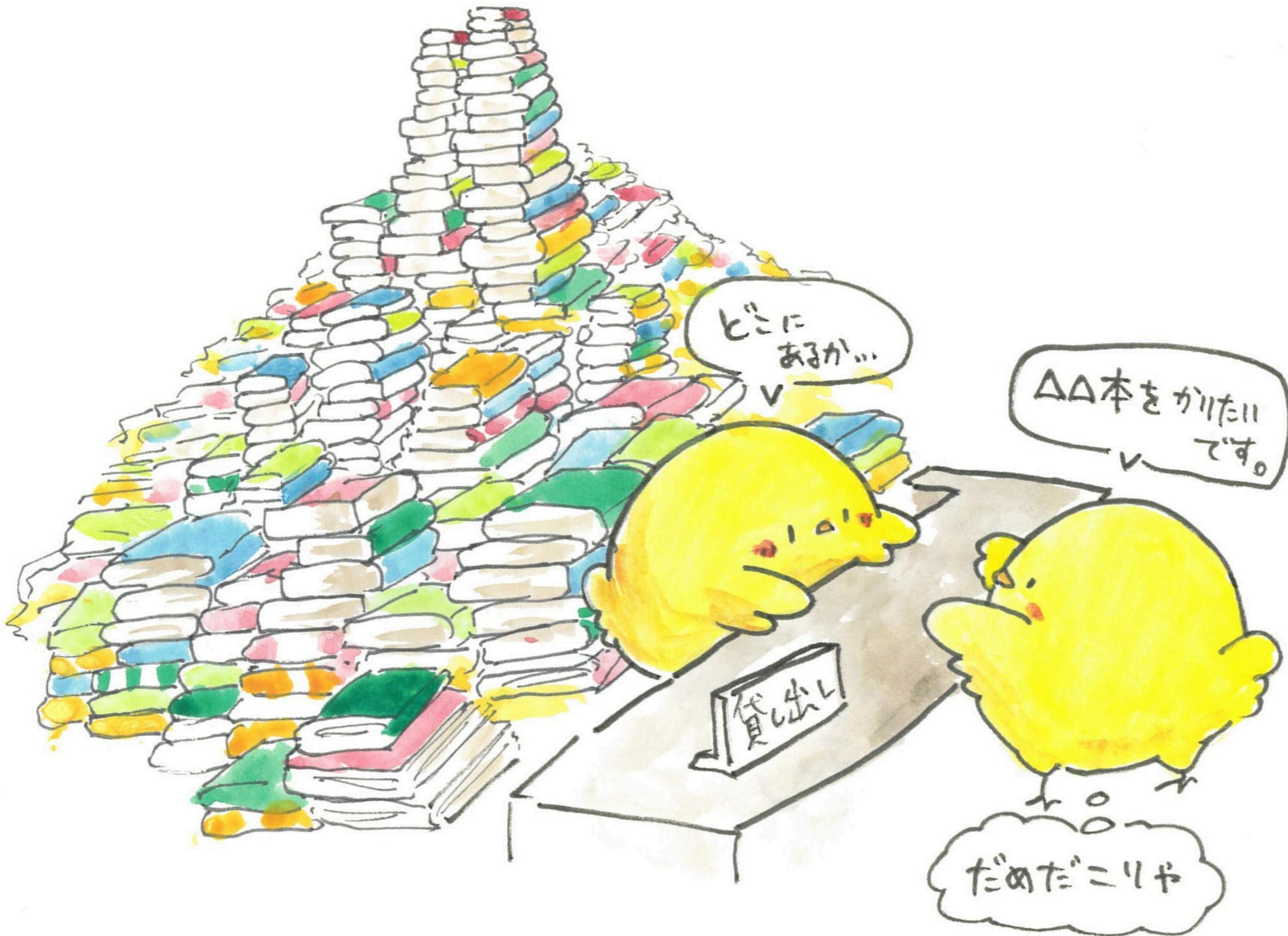
絶えず読まだけで  
あとで"考える(消化する)  
ことをしなければ"



読んだ内容は精神に根を  
おろすこともなく、すぐに失われる。



どれだけたくさん本があっても、  
整理がついていない本は  
あまり大きな意味をもたないが、



整理されていれば、そこまで冊数が  
多くなくてもすぐ"れた効果を發揮する。

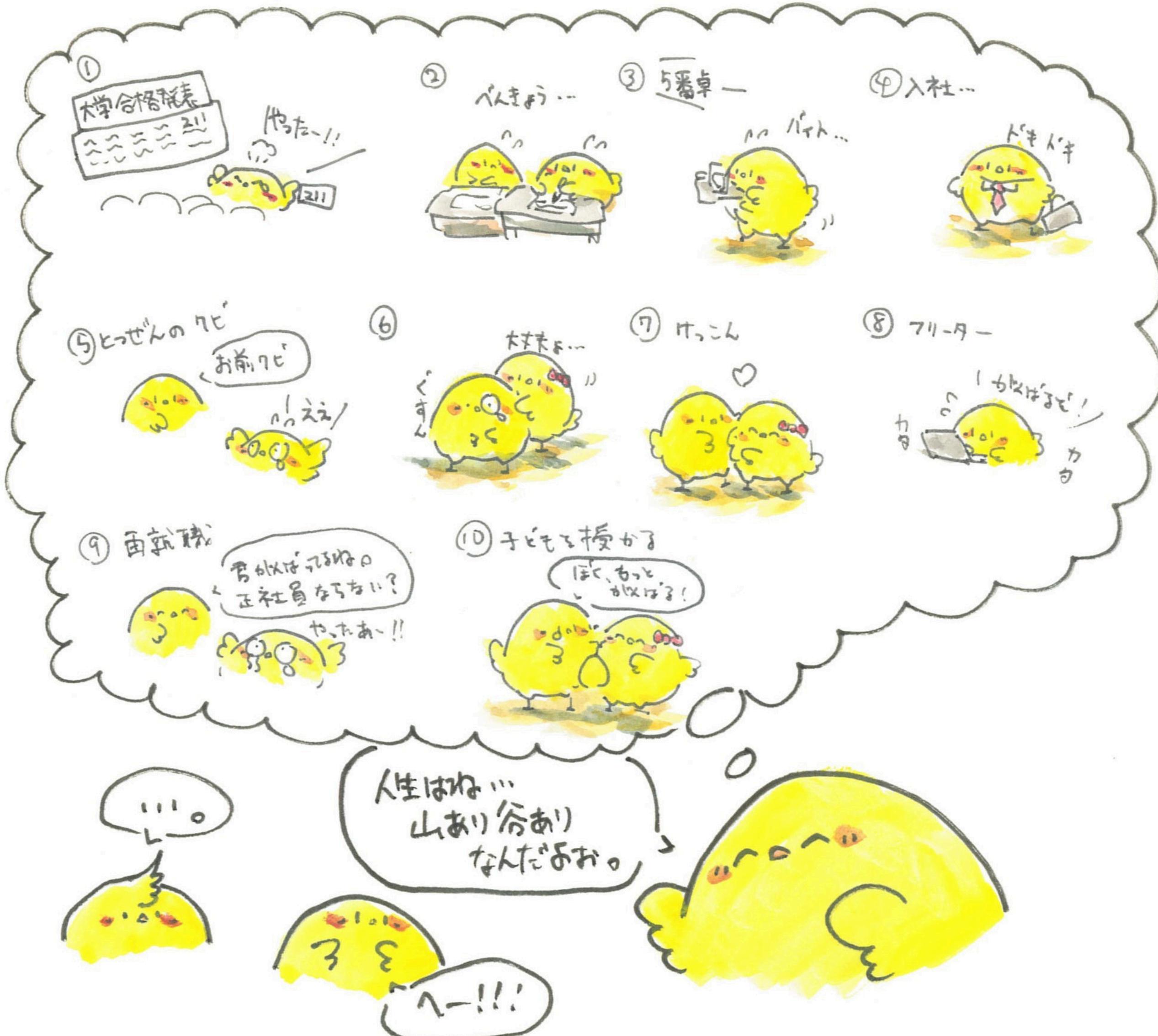


知識も一緒にある。

どれだけたくさん知っていても、  
自分で考え抜いた知識でなければ、価値はない。



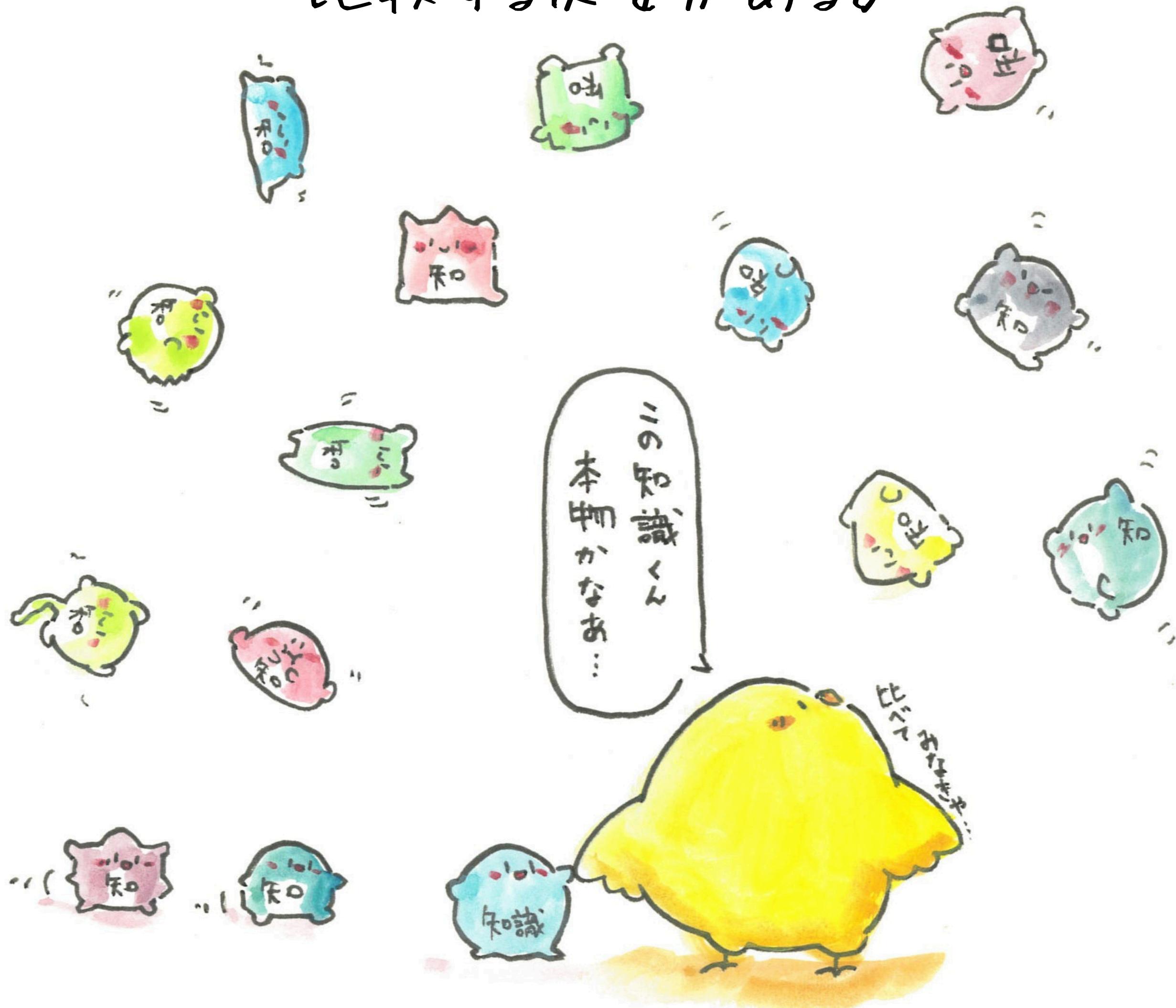
量が少なくてても、いくども考え方の  
知識であれば、その価値ははるかに高い。



何か一つのことを知り



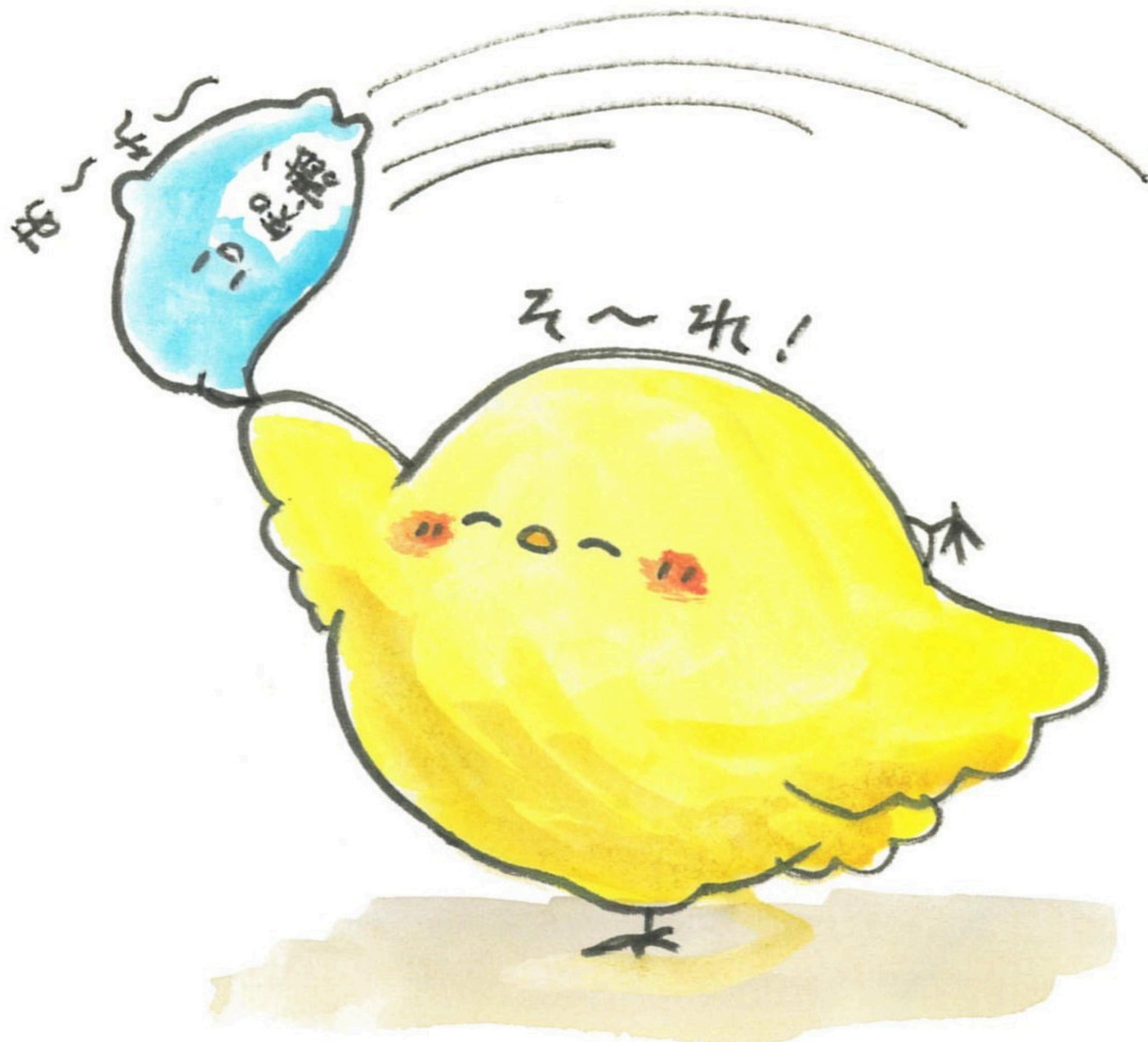
一つの真理をものにするといつても、  
それを他の様々な知識や真理と結合して  
比較する必要がある。



この手続きを経てはじめて、  
自分自身の知識が完全な意味で獲得され



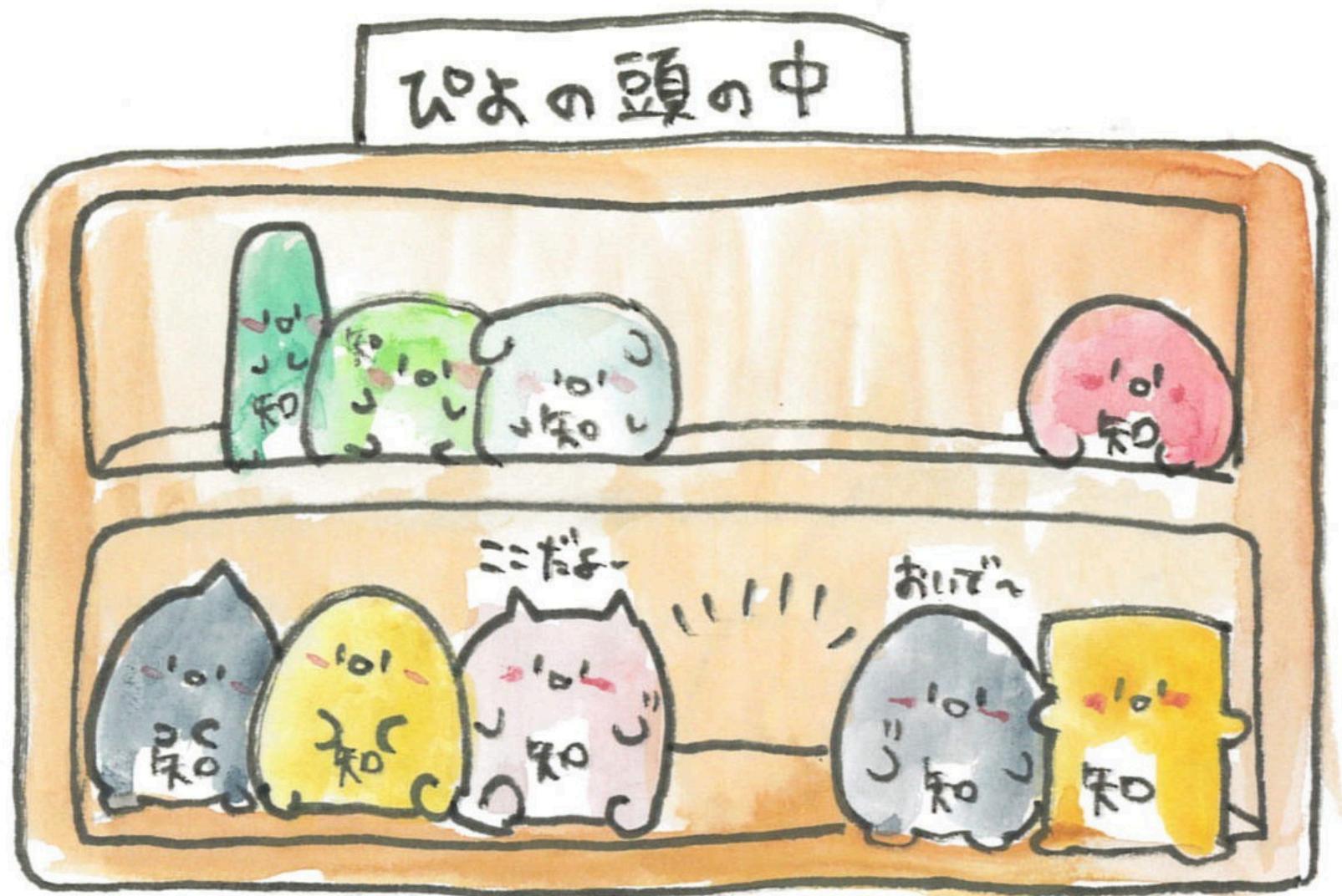
その知識を自由に使うことができる。



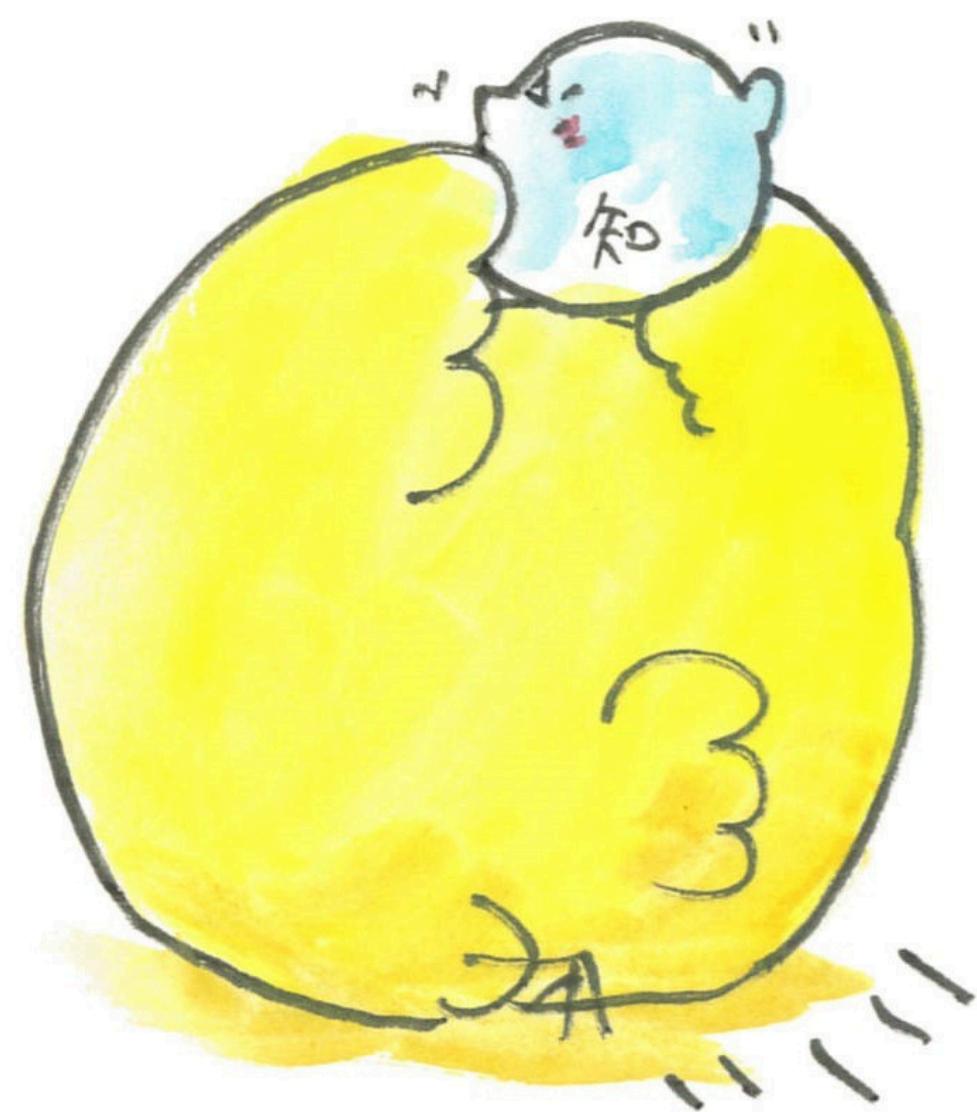
自分で思索して獲得した真理は



自分の考えの中に整理されて



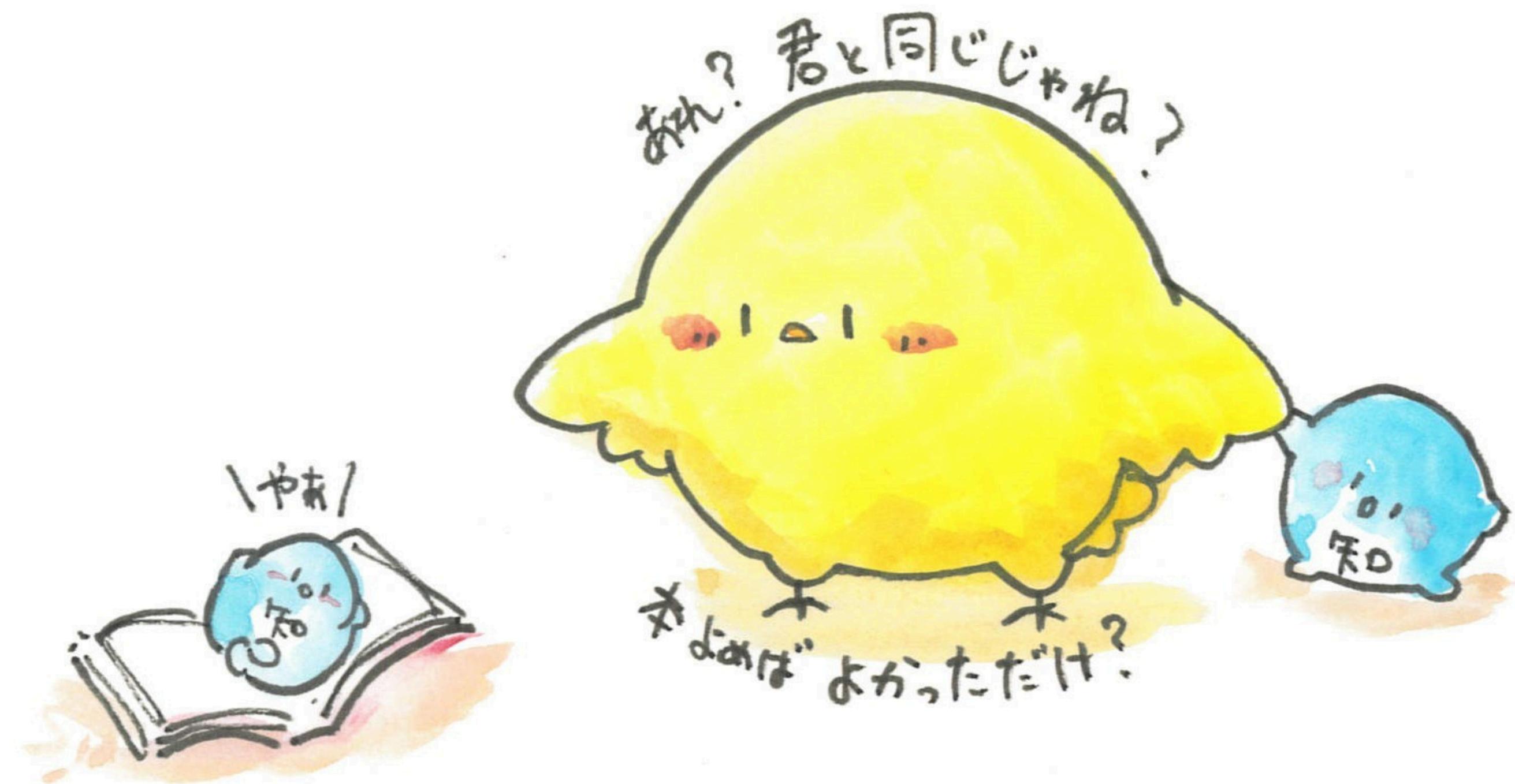
君の居場所は  
おそこだー。  
ちょっと足りなかつたとこ。



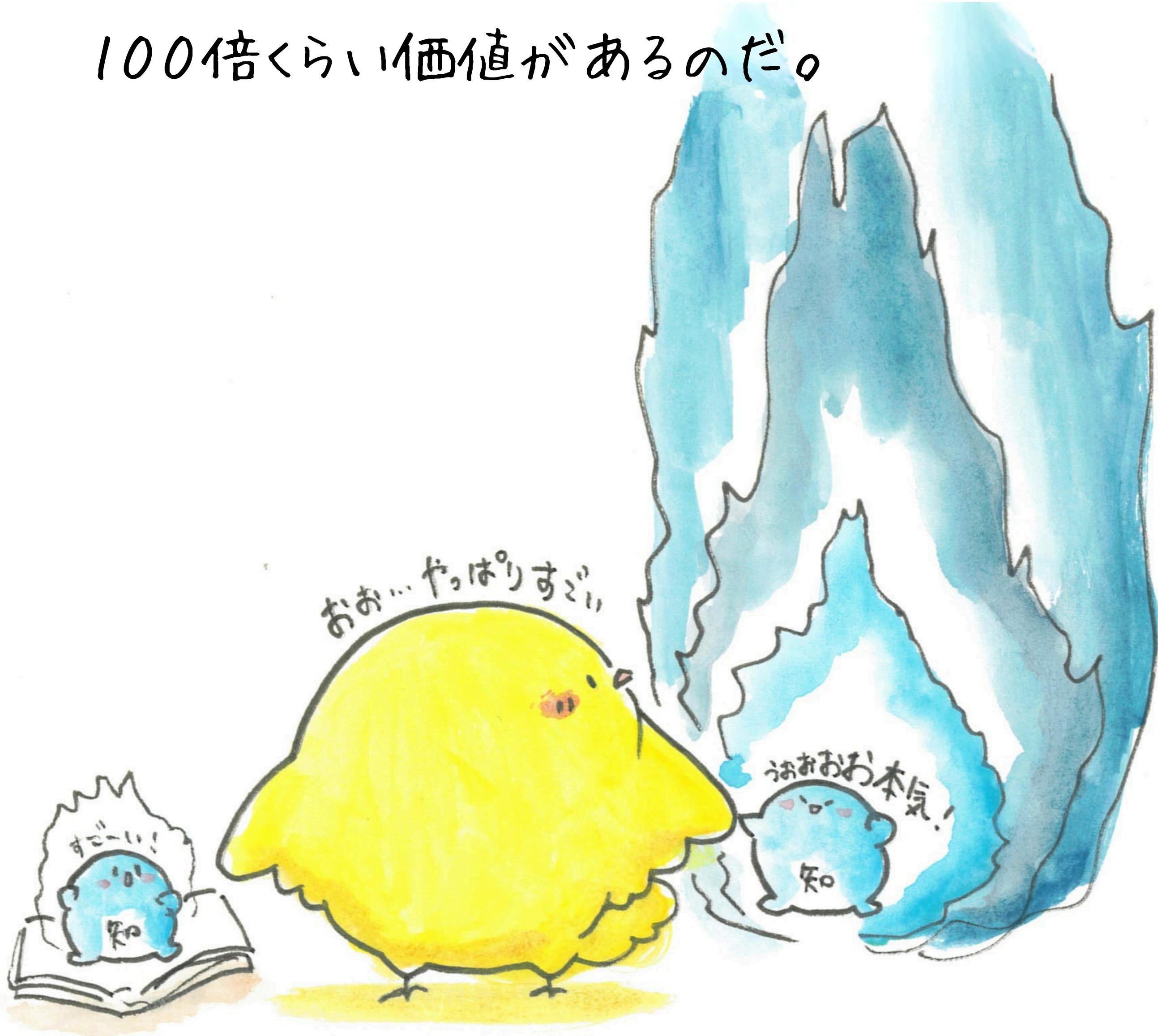
自分で考えて見つけ出したがゆえに  
忘れることもなく



# 本の中にある知識の



100倍くらい価値があるのだ。





完

